

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03514

研究課題名(和文) 日本障害児教育の欧米依存からの脱却と自立のための欧米障害児教育の理論的歴史的総括

研究課題名(英文) Theoretical and historical evaluation of education for children with disabilities in the Western for constructing unique Japanese special education

研究代表者

中村 満紀男 (Nakamura, Makio)

福山市立大学・福山市立大学・名誉教授

研究者番号：80000280

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本のインクルーシブ教育は、国際的な影響から生まれたものに過ぎず、内発的に構築したものではない。日本の障害児の教育は中央集権的に展開されたために、地方教育委員会と地方の学校は、理論的・実践的な蓄積を怠ったのである。とくに、理論と理念については先進国からの輸入を繰り返してきた。そこで本研究では、戦前から日本の特殊教育に影響を与えてきたドイツとアメリカ合衆国、戦後の特殊教育に大きな影響を与えた社会主義・ロシアおよびスウェーデンから、何を学び、導入しようとしたのかを明らかにし、日本の特殊教育の実態と対照することにより、日本独自の特殊教育形成を妨げてきた要素は何かを究明した。

研究成果の概要(英文)： Inclusive education in Japan is merely born out of international influences, not structured endogenously. The special education in Japan was developed under centralized administrative framework, and the local special education neglected theoretical and practical accumulation. In particular, the theories and ideals have been imported from developed countries repeatedly.

Therefore, in this research, we studied two themes. One is to clarify what Japanese visitors had learned and introduced from developed countries. The target countries are Germany and the United States that have influenced Japanese special education before the Great war, and socialism-Russia and Sweden that had a great influence on post-war special education. Another theme is to contrast the acceptance of information from developed countries with the actual situation of special education in Japan. Through these two procedures, we found out what factors have hindered Japan's unique special education formation.

研究分野：特別支援教育

キーワード：日本の障害児教育 インクルーシブ教育 アメリカ合衆国 ドイツ スウェーデン ロシア 社会主義

1. 研究開始当初の背景

日本の障害児教育は、二つの特徴をもっている。一つは、欧米先進国以外では唯一、量的・質的に高度なレベルの特別支援教育を実現していること、もう一つは、それにもかかわらず、他の分野と異なり、国際競争力に乏しいことである。その原因の一つは、明治期および昭和戦後期において、理論と実践ともに先進国からの情報に依存し、その情報に基づいて、一時的に流行するサイクルを繰り返してきた。いまや、このサイクルを切断し、日本の社会的・文化的・教育的基盤のうえに立った障害児教育の理論と実践を、先進国情報を相対化して自らの力で構築する時期である。

2. 研究の目的

(1) 現在の日本の障害児教育の危機が、理論と制度における先進国からの表面的・部分的輸入と実践におけるガラパゴス化によって生じており、基本的な改善課題であることを明示する。

(2) この課題は、元来、日本には存在しなかった特殊教育を欧米先進国から受容する過程において形成・強化されたことを、特に、明治以降から現在までのドイツおよびアメリカと、戦後のスウェーデンおよび社会主義(ロシア)との関係史を通じて究明する。同時に、日本の観点と各国の内部事情とを総合した欧米障害児教育史の再構成を試みる。

(3) 以上の成果に基づいて、非欧米圏の日本の障害児教育が、欧米模倣でない、国際的影響力を持ちうる障害児教育を開発するうえでの理論的・実践的条件を導出する。

3. 研究の方法

(1) 日本が、特殊教育の成立から現在まで、背景・国情の異なる欧米情報をどのように受容し、その結果をどのように認識したのか、教育文化的・社会的背景から解明する。

(2) 特殊教育成立期、基盤形成期、第二次世界大戦後、現代に分けて、日本が、アメリ

カ・ドイツ、スウェーデン・社会主義(ロシア)から受けた影響の観点と各国ごとの二つの分析視点から、各国障害児教育史を再構成する。

(3) 日本の障害児教育が普及度等で高度なレベルに達しながらも、情報・技術の輸入超過と実践のガラパゴス化に陥っている構造を解明し、国際的に貢献可能な障害児教育システムの理論と条件を提案する。

4. 研究成果

戦前までの特殊教育制度の基礎構築時代である大正期までは、中央および地方の政府高官は、特殊教育に関心をもつ人々がいたが、小学校制度の確立は障害児の排除に作用した。また、盲・聾教育では、社会資源を欠いていたために小規模な盲啞学校形態をとったが、地域社会が支えたのである。精神薄弱児教育では大きな地方間格差があり、大阪・東京・京都では、わずかな研究と地道な実践の合体が見られた。さらに、劣等児の教育についても、広範な実践が見られた。しかし、それぞれの特殊教育がある程度普及すると、従事する教員も増加することで、しだいに指導の根拠を自らの実践ではなく、海外の教育情報に依存するようになる。これには、高等教育機関に特殊教育の専門家が皆無だったことも関係している。

戦後においても、図式は変わらなかった。占領国・アメリカの理念を基本とし、アメリカを初めとする海外情報が支配的となり、担当児童生徒に対する自らの実践ではなく、新しい外来情報に依存する行動様式がつづく。ただし、例外は二つあった。一つは、敗戦直後の精神薄弱と昭和54年の養護学校義務制である。この時代には、児童生徒や保護者の願望に応えるべく、全国でリーダー的な教師が生まれて、創意工夫を深めたのである。しかし、それが過ぎた後は、その時々々の外来情報が部分的に摂取され、モザイク的な特殊教育が形成されていく。こうして、特殊教育が

変化するきっかけは、現在のインクルーシブ教育に至るまで外来情報に基づくこととなり、日本の風土に合った特殊教育・特別支援教育の理論的・実践的構築とその蓄積に向かうことがない。そして、特別支援教育における自らの進路は、実践からではなく外来性のトレンドが規定することになる。この行動様式の由来と問題を解明することが、日本の障害児教育における欧米依存を軽減し、自立するために必要なプロセスとなる。

アメリカは、新興国家として躍進したために、特殊教育についても、後進国・日本が関心を示してきた国であり、戦後の占領体制の下、日本の教育の指針となり、理念的に理解された。しかし、理念と現実が乖離した国である。19世紀末以降の大国化、多民族国家・多文化社会、富の一極集中、教育の地方分権、公立学校特殊教育の制度化、能力主義、精神薄弱者の社会的排除、1970年代の重度精神薄弱児の教育、1990年代以降のインクルーシブ教育唱導。これらの矛盾を総合する歴史的再構成について検討した。

ドイツでは、第2次世界大戦後の障害児教育の理念と学校制度の発展過程について、Segregation, Integration, Inklusionへと、ドイツ的特色をもちながら展開してきた。インクルージョン期では、学校制度の仕組みや教育活動の具体化には州により対応が異なっていた。日独交流については、戦前では盲・聾教育に関係した教育学者の、戦後では上記の3期における日本人のドイツ受容および訪日ドイツ人学者の活動について整理した。

スウェーデンについては、第2次世界大戦以降のインクルーシブ教育への歴史的動向を、EFA(すべてのものための一つの学校)を軸として俯瞰した。2008年に復活した『従来型』特殊教育担当教員養成制度は、インクルーシブ教育の流れを一気に停滞させた。また、国連障害者権利条約第17条「人間としての尊厳」は、スウェーデンにおける障害者

運動の最も肝要な概念であるが、正当に邦訳されておらず、本来の意味を提起した。

社会主義・ロシアについては、ソビエト時代の盲聾児教育の発展について約1世紀にわたる理論的・実践的過程を明らかにした。また、社会主義時代の欠陥学と現代ロシアの障害児教育に通底するL.S. ヴィゴツキー理論について、日本における受容の特徴を明らかにした。また、インクルーシブ学校および伝統的タイプの知的障害児学校の教育内容・方法の特徴を明らかにし、実践的背景を把握した。

研究成果は、2020年度に単行本として公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

山下明莉、廣瀬信雄 他、東アジア三国におけるヴィゴツキー・ルネッサンス説論、山梨障害児教育学研究紀要、査読無、12、2018、23-34

三澤哲彦、木村素子 他、知的障害のある子どもと障害のない子どもとの教科学習における交流及び共同学習の展開、群馬大学教育実践研究、査読無、35、2018、183-192

杉尾早紀、木村素子 他、聴覚障害児の保護者が期待するインクルーシブな教育環境とその実状、宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要、査読無、26、2018、135-148

品田彩子・岡典子、1980年代前半カナダにおける障害者に対する雇用上の合理的配慮の特質 - 宗教行為に対する合理的配慮との比較検討 -、障害科学研究、査読有、40、2016、29-41

岡典子 他、ドイツにおけるインクルーシブ教育改革への模索 - 社会的・教育的基盤との関連に着目して -、筑波大学特別支援教育研究、査読無、10、2016、65-74

中村満紀男、岡典子、師範学校附属小学校特別学級設置勸奨に関する明治40年文部省訓令第6号の政策的再評価、福山市立大学教育学部研究紀要、査読無、4、2016、69-83

DOI: http://doi.org/10.15096/fcu_education.04.08

Makio NAKAMURA, Tsujimura Yasuo (1913-1979) - proposed amendments of

infrastructure construction and the separation of the special education system, Japanese Journal of Special Education, 査読有, vol.5, 2016、19-21
木村素子、19世紀シカゴ公立通学制聾唖学校における通常教育への限定的近似とその背景、聴覚言語障害、査読無、44(1-2)、2015、1-12

木村素子 他、宮崎県における学習障害のある生徒の高校進学と入学後の支援の状況、宮崎大学教育文化学部紀要教育科学、査読無、33、2015、11-38

小野佐保子、廣瀬信雄 他、盲ろう児(者)教育の歴史と現代 - その開始と現代的サービスの支援機器、山梨障害児教育研究紀要、査読無、10、2015、96-110

清水一毅・廣瀬信雄 他、ヴィゴツキーの視点と現代の教育問題 - くり返されるヴィゴツキー論、山梨障害児教育研究紀要、査読無、10、2015、58-77

〔学会発表〕(計2件)

中村満紀男、特別支援学校等における史料目録作成の現状と課題(9)、日本特殊教育学会第53回大会、2015.9.19、仙台市

廣瀬信雄、ロシアの欠陥学と日本における盲ろう児教育、盲ろう者の諸問題国際大会(C分科会)、2015.4.16、モスクワ市

〔図書〕(計7件)

中村満紀男(編)、明石書店、日本障害児教育史 戦前編、2018、1-1342

廣瀬信雄(訳)、20世紀ロシアの挑戦 盲ろう児教育の歴史 - 事例研究にみる障害児教育の成功と発展 -、明石書店、2017、1-288

廣瀬信雄(訳)、ヴィゴツキーの生涯(新装改訂版)、新読書社、2017、1-287

廣瀬信雄(訳)、文芸社、子どもに向かって「おまえが悪い」と言わないで：コルスンスカヤの聴覚障害児教育、2016、1-225

岡典子 他、放送大学教育振興会、特別支援教育基礎論、2015、25-38

成田孝、廣瀬信雄、湯浅恭正、大学教育出版、教師と子どもの共同による学びの創造 特別支援教育の授業づくりと主体性、2015、1-170

廣瀬信雄、手塚知子(訳)、ミネルヴァ書房、2015、1-208

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 満紀男 (NAKAMURA, Makio)
福山市立大学・名誉教授
研究者番号：80000280

(2) 研究分担者

藤井 聰尚 (FUJII, Toshitaka)
広島文化学園大学・学芸学部・教授
研究者番号：50033634

廣瀬 信雄 (HIROSE, Nobuo)
山梨大学大学院・総合研究部・教授
研究者番号：10218844

岡 典子 (OKA, Noriko)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：20315021

富永 光昭 (TOMINAGA, Mitsuaki)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50227633

木村 素子 (KIMURA, Motoko)
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：60452918

高柳 瑞穂 (松本 瑞穂) (TAKAYANAGI, Mizuho) (MATSUMOTO, Mizuho)
東京福祉大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：60588010